

JCO 臨界事故展示



JCO 臨界事故は、国内外の人々に大きな衝撃を与え、風評被害をもたらし、原子力への信頼を揺るがせた。しかし、その記憶もやがては薄れ消え去る。
この展示は、事故を真摯に見つめ、事故の実像を理解し、風化させず、二度と繰り返さぬための教訓にと企画されたものである。



この事故は、株式会社ジェー・シー・オー（JCO）東海事業所のウラン転換試験棟で発生した。当時、この建物では高速実験炉「常陽」の燃料原料となる濃縮度 18.8% のウランを硝酸に溶かし、均一にする作業が行われていた。

この作業に使用すべきでない沈殿槽と呼ばれる設備に、制限量を大幅に上回るウラン溶液を投入した結果、核分裂連鎖反応による放射線（中性子線およびガンマ線）が敷地外にまで放出され、このような状態が約 20 時間にわたって継続した。

この我が国初の臨界事故は、放射線被ばくによる 2 名の死者を出し、周辺住民の避難や屋内退避、深刻な風評被害をもたらした。

関係機関や専門家が協力して臨界を終息させたが、この事故を教訓として、その後、原子力災害対策特別措置法の制定や原子炉等規制法の改正など、原子力の安全確保のために、これまで以上に様々な対策がとられるようになった。



■プロローグ

- 導入部解説/事故時の作業プロセス解説
- JCO 臨界事故の概要

「事故を二度と繰り返してはならない」という願いを示し、臨界事故が発生した作業場所や工程などの概要を紹介しています。



■事故の現場を知る

- 沈殿槽原寸模型装置
- JCO 臨界事故「解説映像」

解説「臨界とは・・・？」
臨界が発生した沈殿槽の模型を原寸で再現。解説映像と連動させることで、臨界事故を正しく理解するための情報を提供しています。



原子力科学館のご案内

- 開館時間
9:00 ~ 16:00
- 入館料
無料
- 休館日
月曜日（祝日の場合は翌日）/年末年始

交通のご案内

- 常磐自動車道
東海スマートICより約10分（5km）
那珂 IC より約30分（14km）
日立南太田 IC より約20分（8.5km）
- 東水戸道路
ひたちなか IC より約20分（11km）
- JR 常磐線
「東海駅」下車 東口より茨城交通バス（茨城東病院、海浜公園西口行き）約10分
「原研前」下車 歩道 2分



問合せ先

- 公益社団法人
茨城原子力協議会
〒319-1112
茨城県那珂郡東海村村松 225-2
TEL : 029-282-3111
FAX : 029-283-0526

<http://www.ibagen.or.jp>

このパンフレットは、東海村が広報・調査等交付金により作成したものです。（H30.1）

JCO 臨界事故展示



大事なことはおびえ恐れることなく
この事故の真実を正しく理解し
自分の生活、健康に自信を持つことではないかと思います。
（1999年10月30日付 記念撮影）

（1999年10月30日付 記念撮影）

